

中国の都市集合住宅における「上下足分離」の住様式の出現とその動向

○趙 萍* 今井範子**

(*奈良女大・院 **奈良女大)

【目的】中国の都市集合住宅における「上下足分離」の住様式の出現とその進展方向に関する実態を把握し、居住者が抱える「上下足分離」に伴う問題点を明らかにした上で、今後の発展方向と平面計画上、考慮すべき点を検討することを目的としている。

【方法】中国陝西省西安市集合住宅の居住者 453 世帯を対象に質問紙調査と詳細な聴き取り調査を実施した。調査時期は 1999 年 8 月、回収率は 78.8% で、有効回収数は 357。

【結果】9 割の世帯において、「室内のインテリアが良くなる」などの理由で床を貼っている。さらに 9 割強の世帯は「床がきれいに保てる」などの理由で、家の入り口で上足からスリッパに履き替えている。床材に板敷きなどを多く使用しているため、3 割強の世帯において、床座の生活様式が生じている。なお、床座の場所は板敷きなどの貼ってある客厅（居間）と臥室（寝室）であった。ところが 6 割弱の世帯は依然として床座に抵抗感を持っていることが分かった。さらに、素足でいる部屋の有無と床座の有無との間に強い関連性がみられた。一方調査対象世帯の 6 割強は室内では同じ上履きをはき、上履きをはく場所を 2ヶ所に分けている住戸は 75 世帯あるが、そのうちの 6 割は浴室（浴槽＋洗面＋便器と浴槽＋便器の 2タイプ）だけを他の空間と区別して違う上履きを履いている実態が明らかになった。現在「上下足分離」は都市居住者の慣習となっているが、この新しい慣習に対応する平面計画はなされていない。「家の入り口に履き替え用の空間を設けてほしい」などの要求が高く、新しい慣習を考慮した玄関やはきもの収納の平面計画をしていく必要がある。